令和２年度使用教科用図書　第２回高砂採択地区選定委員会（図画工作科）　議事録

令 和 元 年 ７ 月 ２ ９ 日 （ 月 ）
高砂市ユーアイ福祉交流センター

発言者	内容
司会（会長）	図画工作科の教科用図書について審議する。 開隆堂、日本文教出版について、それぞれいかがが。
委員	両社とも、最初に学習のめあてがある。１つ目は工夫する力、２つ目は感じたり考えたりする力、日本文教出版は３つめの目標が活動の中で楽しんですることとなっている。開隆堂は３つ目に、心を開いて楽しく活動し、友達と関わり協力し合う力ということが書かれている。開隆堂は楽しむだけではなく協力し合うことを明記している。
委員	開隆堂は、児童が自然に伝え合うことを表している。２社の内容は変わらないが視点が違う。
委員	開隆堂は版画の学習でき上がるまでの工程を写真で表し、見通しを持ちやすくする工夫があり、教師は指導しやすい。
委員	道具の使い方の説明は、日本文教出版のほうが詳しく丁寧に扱っている。また、日本文教出版は安全面についての記載が多い。
委員	段ボールを使う単元が二社ともあり、比較してみた。日本文教出版はお気に入りの場所づくりで、開隆堂は段ボールをいろいろな形に変化させる取組みである。開隆堂の方が造形的であるであると言える。
委員	開隆堂は、段ボールを様々な形に変形させる活動内容である。日本文教出版は、段ボールをさまざまな自然物に溶け込ませて置いたり、組み合わせて活用したりする扱い方である。どちらの造形活動もよい面があり、一概にどちらがよいと言えない。
委員	日本文教出版には、「ちいさな美術館」や「みんなのギャラリー」がある。「みんなのギャラリー」は、地域文化や祭り等の伝統行事に触れるという趣旨あり、たいへんよい。「ちいさな美術館」では、世界中の作家の作品が掲載されている。今自分がやっていることが、博物館や美術館の作品につながっていることを、児童に意識させられるのでよい。開隆堂にも、世界の現代芸術を紹介する記載はある。
委員	開隆堂は１ページに対する情報量が多い。写真は多いが文字は少ない。 日本文教出版は友だちと造形活動を楽しむ写真がたくさん載っており、児童が興味を持ちやすい。情報量もよい印象を持った。
司会（会長）	本委員会は、日本文教出版を推薦する。